

研究・調査報告書

報告書番号	担当
477	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Public health importance of triggers of myocardial infarction: a comparative risk assessment. 心筋梗塞の引き金に対する公衆衛生学的重要性 比較リスクアセスメント	
執筆者	
Nawrot TS, Perez L, Kunzli N, Munters E, Nemery B.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Lancet. 2011 Feb 26;377(9767):732-40.	
キーワード	
公衆衛生、引き金、心筋梗塞、メタ回帰分析	
要 旨	
目的： 急性心筋梗塞は、身体運動、ストレスの多い出来事、食事、大気汚染の増加など様々な要因によって発生する。しかし、それぞれ引き金の重要度と頻度との関連は不確かである。私たちは、個人あるいは集団のレベルで心筋梗塞の引き金について比較した。	
方法： PubMed Web および Web of Science citation databases で集団寄与危険割合 (PAF) を算出するために非致命的な心筋梗塞の研究のトリガーについての検索を実施した。可能な場合は、同じ引き金の研究のメタ回帰分析をした。	
見解： 疫学研究のレビュー36 報は、十分な詳細を提供していた。この研究母集団では、関連がある時間内でのトリガーの暴露頻度は、コカイン使用は 0.04%から大気汚染の 100%の範囲であった。報告されたオッズ比 (OR) は、1.05 から 23.7 に及んだ。最も高いオッズ比から最も低いオッズ比は以下の順であった。: コカイン、食事、マリファナの喫煙、否定的な感情、身体活動、肯定的感情、怒り、性的な活動、交通事故、呼吸器感染症、コーヒー消費、大気汚染 (直径 10 μ m[PM10]以下の粒子状物質の 30 μ g/m ³ の違いに基づく)。オッズ比と暴露頻度を計算すると、最も高い PAF は交通事故 (7.4%)、続いて身体運動 (6.2%)、アルコール (5.0%)、コーヒー (5.0%)、PM ₁₀ で 30 μ g/m ³ の違い (4.8%)、否定的な感情 (3.9%)、怒り (3.1%)、十分な食事 (2.7%)、肯定的感情 (2.4%)、性的な活動 (2.2%)、コカインの使用 (0.9%)、マリファナの喫煙 (0.8%)、呼吸器感染症 (0.6%) だった。	
結論： リスクと暴露頻度の両方を考慮すると、大気汚染は心筋梗塞の重要な引き金である。トリガーとしてよく受け入れられている身体運動、アルコール、コーヒーなどと同様の PAF (5~7%) である。我々の報告で、すでに存在している小さなリスクの公衆衛生学的な関連を考慮すべきであることを示唆している。	